

NCNL

No. 28

2010.12

図書館だより

Contents ページ

大英図書館の思い出	1
エッセイ	2
奇贈図書	3
無線LAN	3
書評	4
「看護婦が見つめた人間が死ぬということ」	
図書館利用統計 & 看護学蔵書構成	5
新潟県立看護大学	6
レポート	

大英図書館の思い出

生物・医学領域 教授 境原三津夫

私の研究生生活は、イギリスの医事法研究から始まりました。イギリスでは胎児に重大な障害がある場合、それを理由にその子を産まないという選択肢があると法律に定められています。これを胎児条項といいます。この法律の成立過程において、イギリス議会を中心として多くの議論がなされました。私は当時の様子を知りたくて、大学の図書館をはじめとして国内の大きな図書館で資料を探しました。しかし、求めていた資料は国内にはなく、イギリスの大英図書館に保管されていることがわかりました。私は資料を見たいという知的好奇心に促されるまま、イギリスに渡りました。

大英図書館は街にあふれるイギリス風の伝統的な建築物と違い、近代的な装いをした建物でした。山吹色と赤を主体とした色調で、一見中国を連想させる建物です。煉瓦が敷き詰められた広い前庭をぬけると正面玄関にたどりつきます。天気の良い日には、前庭のあちこちに日光浴をしたり、新聞を読んだりしている人たちがいます。玄関に入ると、正面がインフォメーション、右手側に入館証の発行所があります。大英図書館で資料を検索するには、まず入館証を発行してもらわなければなりません。身分証明書を提示し、手続きを済ませると、写真付きの入館証が交付されます。各分野の開架図書スペースの入口には係員がいて、この入館証をみせると中に入ることができます。

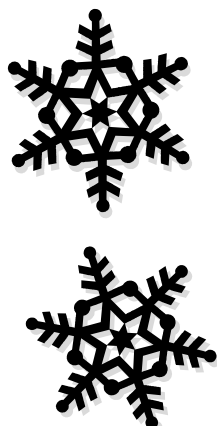
日本でリストアップした資料の検索は資料検索室で行います。そこには資料検索用のコンピューターがフロア全体に並んでいます。保管している資料は膨大な量になるため、本館だけでは保管しきれずに、多くはヨークシャーの別館に保管してあります。すべてはコンピューター操作になっており、入館証の個人番号を入力するとコンピューターの検索画面が開きます。本館の書庫に保管されている資料は、画面上で「注文」を

選択すると、係員が書庫から出してきてカウンターに用意してくれます。別館に保管されている資料は、画面の「配送」を選択すると翌日に本館に届けられる仕組みになっています。

本をコピーするには、最初にカウンターでコピーカードを購入します。当時は50枚で10ポンドでした。当時の為替レートで計算すると1枚40円ということになります。日本では1枚10円でしたので、ちょっと驚きました。また、日本では一般的に、本を180度開いて伏せて2ページ分を一度にコピーします。1ページずつコピーするより、この方が経済的だからです。しかし、大英図書館ではこの方法は御法度です。1ページずつコピーしないと注意されます。コピー機の前面にスペースがあり、そこが斜めに傾斜しています。本を開いて、コピーしたいページだけをガラス面にのせ、反対側のページはその傾斜部分にのせます。こうすると本は約160度開いた形となり、本に無理な力がかからないので製本部分が傷みません。コピー料金は2倍かかるので非経済的ですが、古いものを大事にするというイギリス人気質を感じました。

古い法律の全文などは、マイクロフィルムに保存されています。シート状のフィルムに記録されているので、それを読み取り用の機械にセットして、端から順番に探していきます。見つかったらそれを印刷します。機械の操作はそれほど難しくはなく、係の人が親切に教えてくれるので安心です。マイクロ

(2 ページに続く)



フィルムは一枚印刷するのに160円かかりました。

当時の私にとって大英図書館は宝の山でした。日本では手に入らない資料を簡単に検索することができ、さらに手に入れることができたのは大英図書館のおかげです。当時のイギリスの社会状況を知ることができ、またわが国へ胎児条項を導入するべきか否か

について、私なりの見解を論文等にまとめることができたので、少しは社会の役に立ったのかなと思っています。古いものを大切にするというイギリス人の心も教えてもらい、研究のみならず心も成長させてもらった大英図書館でした。

(さかいほら みつお)

連載企画1 エッセイ “私のお薦め本”

『幸福な食卓』

瀬尾まい子著 講談社文庫 2007年

2年 ■■■



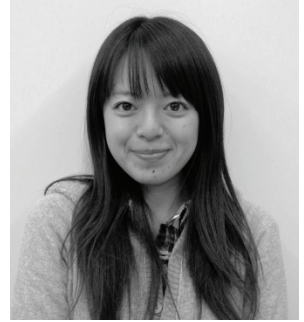
私が紹介する本は「幸福な食卓」です。この本を初めて読んだのは高校生のときでした。母に薦められたのがきっかけです。読み始めた途端夢中になって一気に読みました。

物語全体にあたたかみがあり優しい気持ちが溢れているので、読み終わったときにはやわらかな心地良い余韻が残ります。

主人公の佐和子と家族を中心に物語は進みます。この家族は優しいです。だからこの家族に関わる人もとても優しい人たちです。私は本を一度読むと自分の

好きなところを読み返します。「幸福な食卓」には私のお気に入りのエピソードがいくつかあります。ひとつ挙げるとするならば、直ちゃんの新しい彼女が初めて佐和子のお家に遊びに来る場面です。なんと彼女は、おみやげに油の詰め合わせを持ってきちゃいます。そんな彼女に対して佐和子が心の中でつつこみを入れているのが面白いです。つつこみに向かってにやにや笑ってしまいます。

物語のラストで佐和子は大切な存在を失ってしまいます。佐和子のすごく悲しい気持ちが私にも伝わってきます。でも周りの人とのつながりがとても温かいです。私は夜中に布団にくるまりながら泣いて読みました。そんな思い出のある一冊です。



請求記号：913.6-Se76 (文庫・新書コーナー)

『「福」に憑かれた男』

喜多川泰著 総合法令出版 2008年

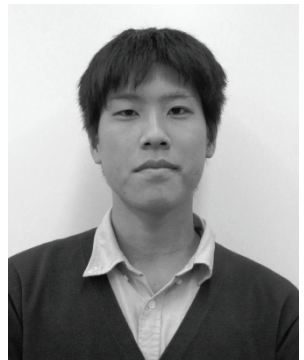
2年 ■■■



私がこのたび紹介させていただく本は『「福」に憑かれた男』という本です。この本は、人生を豊かに変える「3つの習慣」をもとに、自分のこれまでの習慣から決別して、多くの出会いと自分の力で「本当の幸せ」を掴んでいく物語です。この「3つの習慣」というのは、習慣だけあって本当に誰でもできるようなことですが、私も

含めて多くの人が実際には実践することが困難なことです。しかしこの「3つの習慣」は、誰もが本心ではと

ても大切だと思っていることだと思います。この物語を通して、日頃私たちが実践し継続しにくい習慣を行っていったらどのように人生が変化していくのか、またなぜこの習慣を通して人生を豊かに変えることができるのか、とても良く分かります。私もこの「3つの習慣」をすでに始めています。初めは何か変化が起きているのかわかりにくいかもしれませんが、行動していけば必ず人生は豊かに変化します。ここではあえて、「3つの習慣」は伏せておきます。本当に誰にでも実践できる習慣です。またページ数も多くなく、文字も大きいので、手軽に読める一冊です。ぜひ、一度読んでみてください。



請求記号：159-Ki63 (棚14左(2階))

寄贈図書もご利用ください

図書館長 中野正春

1. 寄贈図書と受入

図書館にはいろいろな個人、団体からの寄贈図書があります。

これらのリストは毎月の図書委員会に協議事項として提出され、受け入れるかどうか諮られております。この中には書籍のほかDVD、VHSなどの視聴覚資料も含まれております。

2. 寄贈図書の種類

寄贈図書の種類にもいろいろありますが、個人からの寄贈図書は主として著書、研究報告書、本学大学院生の修士論文などです。個人寄贈図書は学内の教員の他、学外者のものを含みますので、ジャンルも看護学関連のものはもちろん自然科学・考古学・歴史・倫理学・語学・小説等々多岐にわたっております。個人からの著書の寄贈は原則として年2回発行される図書館だよりの巻末に寄贈図書案内として掲載されていますし、昨年度末退職された杉田先生が主管していた快適住まい研究会からの24冊の寄贈図書については図書館だよりNo27で特集記事として掲載されております。

また、各種団体からの寄贈図書は看護系大学以外も含む他大学、各種研究所、病院、文部科学省などの国の省庁とその部局などの附属機関、おもに新潟県などの地方自治体とその部局などの附属機関、出版社、新聞社などいろいろな団体より寄贈されています。

他大学からのものは紀要、研究会誌、博士論文の要旨が主なものです。また各省庁や地方自治体からの寄贈は各々が発行している白書、統計、報告書が主なものです。これらは、原則として無条件で受け入れております。本学は県立大学ですので、新潟県の各部局が発行している各種の白書・統計・報告書などが特に多く寄贈されております。新潟県の各方面の調査には重宝しますのでご利用ください。

以下に寄贈図書の平成22年(10月まで)の受け入れ状況を表にして示します。(視聴覚資料を含む)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
19	21	8	36	65	43	27	11	13	44

このように、寄贈図書は個人の著書以外は掲載されませんが、毎月かなりの数のものを受け入れております。皆様の研究や調査に適したものがあるかもしれませんので、ぜひご利用をお願いいたします。

寄贈図書案内 平成22年6月～平成22年10月

下記の方より著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。(敬称略)

	寄贈者	書名	出版年	請求記号
学外	小風秀雅	受託研究 「佐渡金銀山の歴史的価値に関する歴史学的・史料学的研究」二〇〇九年度調査報告書	2010	214.1-Ko41

無線LANが使えます～自分のパソコンからインターネット～

図書館内に無線LANアクセスポイントが設置され、本学学生であれば、自分のパソコンを持ち込んでインターネットが利用できるようになりました

申込みは不要です。

館内どこからでもアクセスできますが、電波の感度的には2階のパソコン優先席での利用をお勧めします。

連載企画2 書評

『看護婦が見つめた人間が死ぬということ』

新装改訂版 宮子あずさ著・海竜社・2005年

小児看護学 助教 山田 真衣

みなさんは、「死」について考えたことがありますか？今回、私が紹介したい本は、現在も第一線で看護師をされている、宮子あずささんの『看護婦が見つめた人間が死ぬということ』です。宮子さんはプロローグで“死について考えさせられた症例は、同時に、生きることについても考えさせられた”と述べています。人はいつか「死」を迎えますが、元気な時は特に「死」についてあまり意識しません。しかし、病院には入院してから最期を迎えるまでのプロセスの中で、さまざまな考えを巡らしている患者さんがいます。そのような患者さんや家族と接することで、学ぶことがたくさんあるのだと考えさせられました。この本を読み、私自身も祖父の「死」を経験して、看護師と患者さんやその家族の関わりについて学びを得た経験があることを思い出しました。

その当時、私はまだ看護師を志して勉強に励んでいました。ある日、祖父のお見舞いに行ったときの出来事です。それは、看護師さんが祖父の病室から出て行ったあと、付き添っていた祖母がこう言ったのです。「今の看護師さんは新人さんだね。だってほら、足音がパタパタいっているでしょ。ベテランさんは、足音が静かなんだよ。」確かに、次に来た少し年配の看護師さんは、颯爽と歩いているにも関わらず足音が静かでした。皆さんは、どんな足音がしますか？ペタンペタン、ドスンドスン、パタパタなどいろいろですが、寝ている人やそばにいる家族にとってはただの騒音なのです。



請求記号

N980-Mi76

(棚4左(1階))

※初版も所蔵しています。

この体験から、看護師の動き一つ一つが、入院環境なのだということを知りました。それから静かに歩くことは、私の中のルールになり、今では、猫足と言われるまでになりました。この数日後に祖父は亡くなり、結局この日が祖父に会えた最後の日となりました。看護師にとっては、あ

る日の業務日かもしれませんが、家族にとっては大切な人とのわずかな日々のうちの1日になります。そのような、「死」を迎える患者さんのわずかなひと時、関わらせてもらう中で、いったい何ができるのかということを考えながら看護をしてゆくことが大切です。また、そこから自分自身の看護観が見いだせるのではないかと思います。



この本の初版は、宮子さんが看護師7年目の時に執筆されたものです。今回の改定版では、さらに10年の看護師を経験した宮子さんが当時を振り返り、さまざまな場面での「死」をどのように関わった方が最善だったのかということをお返しています。そのため、この一冊で新人から中堅看護師の頃の最善だったと思う看護と、ベテラン看護師の現在の最善だと思うさらに良い看護の2つを見比べることができます。一人の看護師ですので、根本的なところは変わっていませんが、どちらとも素敵な関わり方だと思いました。また、この本の特徴である看護師の視点から書いてある本は、それほど多く執筆されていません。患者さんから見える看護師ではなく、看護師から見た看護師の関わりについて考えることができる貴重な一冊だと思います。

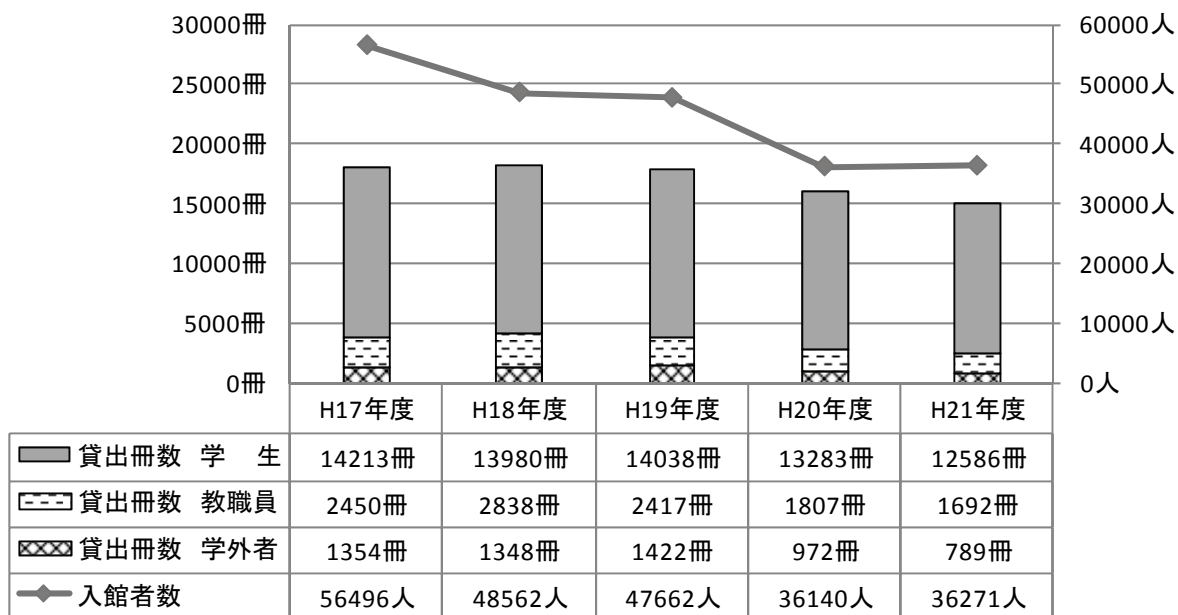
平成19年度版の厚生労働白書によると、日本国民の約6割が病院以外で最期を迎えたいと思っている一方、約8割の人が病院で最期を迎えています。このことから、病院で最期を迎えることがごく当たり前ということになります。しかし、入院された患者さんに関わる時間は、病状や経過によってさまざまです。また、患者さん一人ひとりに全く違う人生のドラマがあり、今日に至っています。要するに、10人の患者さんがいれば10通りの看護が、100人の患者さんがいれば100通りの看護があるということです。みなさんも、ぜひこの本を読んで、「死」を通してみえてくる「生」への看護について考えてみてください。そして、宮子さんのように素敵な看護師さんになれる日を、想像してほしいと思います。

(やまだ まい)

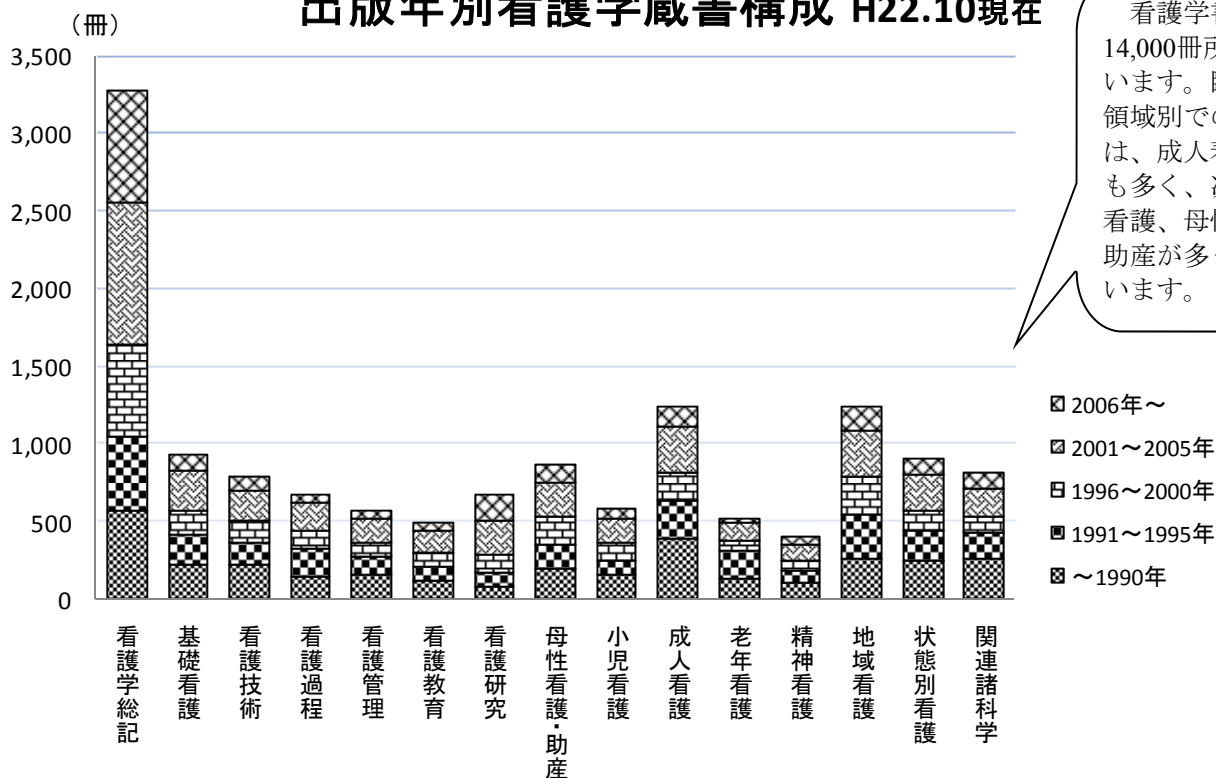
図書館利用統計&看護学蔵書構成

利用状況は、大学完成年度の平成17年度をピークに減少傾向が続いています。
入館者数は5年前と比べ、2万人も減少してしまいました。

貸出冊数と入館者数



出版年別看護学蔵書構成 H22.10現在



にこナース始めました～新潟県立看護大学リポジトリ～

“にこナース”ってご存知ですか？

これは“新潟県立看護大学リポジトリ” (Niigata College of Nursing Repository) の愛称です。Niigata College of Nursing RepositoryからNICONURS=にこナースと命名しました。

12月1日から正式公開されたばかりの新しいサービスです。リポジトリとは何でしょう。英和辞書を引いてみると、「repos-i-to-ry名1(正式)容器、2 保管場所、たんす;(知識の)宝庫、3 秘密を打ち明けられる人」と書いてあります。ここで言うリポジトリとは「2」の保管場所、“知識の宝庫”を指します。(「3」の意味が気になりますが、ここではひとまず置いておきます。)

新潟県立看護大学のリポジトリですから、新潟県立看護大学の知識の宝庫・・・つまり、先生方の書いた学術論文や、講義で使用した教材などを電子化して保管し、皆さんに提供するサービスです。

図書館の所蔵資料の電子化ではなく、「大学構成員の著作物が電子データ化されていて、インターネット経由で無償でアクセスできるサービス」です。

近年、外国雑誌の価格が高騰しているため、図書館では毎年購読中止せざるを得ない事態が起っています。外国雑誌が購読できなければ、最先端の研究を知ることが出来ないばかりでなく、先生方の書いた論文、つまり大学で研究した成果が、その大学内では見ることができないということになります。また、本学のような公立大学は、特に地域社会に対して研究活動を説明する責任を負っていますが、それも果たしにくくなります。リポジトリはこうした問題点を解決する手段の一つなのです。

まずはアクセスして、新潟県立看護短期大学も含めた過去の研究成果をご覧ください。そして次は、ぜひあなたの研究成果をリポジトリで公開しましょう！

看護文献は和雑誌の文献需要が高いと言われています。あなたの論文を見たいと思っている方がたくさんいるのです。国内には150以上の大学・研究機関がリポジトリを持っていますが、本学のような小さな大学で自前のリポジトリを持つところはまだそう多くはありません。研究成果を広めるチャンス！

詳しい申請方法は図書館へお尋ねください。

ちなみに“にこナース”は、本学のH准教授が名づけてくださいました。図書館担当者は本学を表す愛称がなかなか思い浮かばず何日も悩みましたが、リポジトリの会議中にこんな素敵な名前を付けてくださいました。このネーミングは他大学でもとても評判がいいのです。

図書館は、“にこナース”が、ナースを始め看護文献を求める人を「にこっ()」とさせ、本学教員も自分の論文が広く読まれて「にこっ()」と笑顔になるリポジトリになることを目指します。

カート2台とバスケット4個購入しました。
重い製本雑誌や大型本、大量の資料の持ち運びなど、
手に持って館内を回れないときにご利用ください。



URL : <http://repository.niigata-cn.ac.jp/dspace/>



図書館だより 第28号 (2010年12月16日発行)
編集：新潟県立看護大学 図書館委員会 発行：新潟県立看護大学図書館
〒943-0147 上越市新南町240番地 TEL：025-526-1169
E-mail：tosyo@niigata-cn.ac.jp URL：http://lib.niigata-cn.ac.jp/